

「今週の一枚」



四国のシラビソ林

四国の森林を気候帯で区分すると暖温帯のシイ・タブ林から寒温帯の亜高山針葉樹林に相当するシラビソ（シラベ）林まである。ただし、シラビソ林がウラジロモミ林より標高が高いところにあるとはいえない。シラビソ林は冷温帯の森林であるウラジロモミ林やブナ林が分布する標高の範囲内で、岩石の多い斜面に限って成立している。多くの植物にとって好ましくない環境である岩海地だから、気候的な極相を形成するブナやウラジロモミの勢いが弱く、大昔の寒冷期に広がっていたシラベ林の避難地（レフュジア）となっている。同様の例は中部山岳のハイマツ群落でもみられる。（埜田）

（No.85 2003.1.27 掲載）

Abies veitchii forest in Shikoku

Abies veitchii forest is a climatic climax in cold-temperate zone in Japan. However, this forest type is not found above the vertical distribution of *Abies homolepis* which considered as a dominant of climax in cool-temperate zone but survive in such certain refugia as rocky slopes.